

# 全国私立大学教職課程協会版「自己点検・評価基準」(赤羽台キャンパス)

全私教協 2021 年度教職課程運営に関する研究交流集会による

## ライフデザイン学部

### I 教員養成機関の現況及び特徴

#### 1 現況

(1) 教員養成機関(学部)名: 東洋大学ライフデザイン学部

(2) 所在地: 東京都北区赤羽台 1-7-11

(3) 学生数及び教員数 (2021年5月1日現在)

学生数 2,269 人

教員数 72 人 (うち、教育委員会との交流人事 0 人)

(生活支援学専攻 19 名、子ども支援学専攻 14 名、健康スポーツ学科 19 名、人間環境デザイン学科 20 名)

#### 2 特色

赤羽台キャンパスでは、2005 年に設置されたライフデザイン学部にある 2 学科 1 専攻が教職課程の認定を受けている。免許種としては、幼稚園教諭、中学校教諭(保健)(保健体育)、高等学校教諭(保健)(保健体育)(工芸)(工業)、養護教諭があり、下記の表に示した学科専攻で取得可能である。2022 年度の免許取得者数は 126 人で、25 人(2021 年度)が教職に就いている。各学科・専攻の専門領域の学びが教職課程の学修を支えている。中学校・高等学校教職課程では、免許取得を希望する学生が 4 年間の課程を通して意欲的に取り組めるよう、定期的なガイダンスや相談支援、現任教員をゲストスピーカーに向かえた授業等の取り組みを行っている。幼稚園教諭養成課程である子ども支援学専攻は、保育士養成課程を併設し幼保連携型認定こども園を含めた就職希望地域に応じたキャリアを追求できるようにしている。

(各免許種、学科専攻ごとの特徴は以下の②教職課程の目標を参照)

#### ① 認定を受けている養成課程(令和4年5月)

学科・専攻名	教職課程種別
生活支援学科子ども支援学専攻	幼稚園教諭 1 種
健康スポーツ学科	中学校教諭 1 種(保健)、中学校教諭 1 種(保健体育) 高等学校教諭 1 種(保健)、高等学校教諭 1 種(保健体育) 養護教諭 1 種
人間環境デザイン学科	高等学校教諭 1 種(工業)、高等学校教諭 1 種(工芸)

#### ② 教職課程の目標

##### 【生活支援学科子ども支援学専攻】

子ども、乳幼児期の教育、家庭支援、地域連携など幅広い専門知識を持ち、子どもの育ちを包括的にとらえその育ちを支えることができる幼稚園教諭(保育教諭を含む)の養成を目的とする。学校教育法 22 条に定

める幼稚園教育の目的を達成するために、「環境を通しての保育」を基本とし、幼稚園教育要領に示されている教育を行う時に重視する事項、「幼児期にふさわしい生活の展開」「遊びを通しての総合的指導」「幼児一人一人の発達の特性に応じた保育」を実践できる幼稚園教諭の育成を行う。そのために、幼児教育・保育に関する専門知識をはじめ、多様な子どもの育ちへの援助、子どもの心のケア、子育て家庭への支援など、子どもの育ちを育てていく幼稚園教諭としての様々な保育の方法・スキルを習得し、子ども・家族・地域社会から求められる課題解決にも積極的にかかわれる人材の育成を目指している。習得した専門知識や保育スキルを活かし、幼児教育の実践的な場で力を発揮し、子どもの笑顔と幸せな育ちを守る幼稚園教諭を養成していくことを目指している。

#### 【健康スポーツ学科】

健康の保持増進や身体活動に関する知識と理論に基づく実践力を備え、生涯を通じた健康づくりを支援できる教員（保健・保健体育・養護教諭）の養成を目的とする。

「保健」では「個人生活における健康・安全に関する理解を通して、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる」ことを重要視し、「保健体育」の一部としてではなく、保健教育本来の目的を担える健康教育の専門家として中学校・高等学校で中心的役割となりうる教員の育成を行う。

「保健体育」では「心と身体を一体として捉え、運動や健康・安全についての理解と運動の合理的な実践を通して健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かな生活を営む態度を育てる」ことを重要視し、身体運動に親しむ資質や能力を育て、生徒の将来のライフステージに合わせた身体運動の可能性を伝えることができる教員の育成を行う。

「養護教諭」では「自分の健康や身体活動に興味関心を持ち、生涯を通じて心身共に健康で生きる力を育てる」ことを重要視し、学校における健康管理や健康相談に関する専門家として学校内外において児童生徒が抱える様々な健康課題を解決することができる教員の育成を行う。

#### 【人間環境デザイン学科】

##### 高等学校教諭一種免許状（工業）

学校教育法第51条に示されているように、高等学校教育における豊かな人間性、創造性、社会的使命の自覚、個の尊重を教授するための「工業教育」の理念、専門分野である建築、都市、デザイン領域の専門的知識の修得を目的としている。特に本学科では、社会の発展や人口の高齢化といった今日的課題の中で、専門的な知識を駆使し、総合的な観点から、多様な問題の発見と課題解決について教育できる教員を養成する。具体的には、社会の変動に必要なユニバーサルデザインの基礎的な考え方を教授し、建築、住宅、まちづくり、製品、道具など人間の生活環境に関わる諸課題を総合的に捉えられるカリキュラムを設け、高度に発展した工業分野において活躍できる人材を育成できる教育者となり得ることを目指して当該教職課程を設置するものである。

##### 高等学校教諭一種免許状（工芸）

少子高齢化とニーズの多様化が進む中で「ユニバーサルデザイン」を基本とし、建築、環境、製品、医療、交通などを個別に考えるのではなく、「豊かな暮らし」を目標にし、総合的に捉える能力を養成する教育を進めている。そのため人間を中心に捉え、建築から住宅、まちづくり、工業製品などのデザインを総合的に学べるカリキュラムを組み、またカリキュラムの各段階で修得したもののづくりの基本となる知識や技術

を活かして、建築設計や工業製品あるいは福祉機器などのデザインの現場で、ユーザーを中心とした計画、設計および提案ができる人材の育成に資する教員の養成を行う。

これらの教育課程の中で、高等学校教諭1種免許状（工芸）を取得できる科目を各セメスターに配置し、必要な科目を修得することによって、建築やデザイン分野において活躍できる人材を育成できる教育者となり得ることを目指して当該教職課程を設置する。

<参照HP [https://www.toyo.ac.jp/about/data/education/teacher\\_training/faculties/hld/](https://www.toyo.ac.jp/about/data/education/teacher_training/faculties/hld/)>

## II 基準領域ごとの自己点検・評価

### 〔基準領域 1〕教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

#### 基準項目 1-1 教職課程教育に対する目的・目標の共有

##### [現状の説明]

教職課程教育の目的・目標を、「卒業認定・学位授与の方針」及び「教育課程編成・実施の方針」等を踏まえて設定し、育成を目指す教師像とともに、履修要覧・教職ガイドブックを活用しガイダンス・授業内に学生へ周知している。

育成を目指す教師像の実現に向けて学部内に「東洋大学ライフデザイン学部諸資格・教職課程委員会」を組織し、学部における教職に関する事項を審議・運営に取り組んでいる。

教職課程教育を通して育もうとする学修成果（ラーニング・アウトカム）が、「卒業認定・学位授与の方針」を踏まえて具体的に履修要覧等で示している。教員養成を目的とする学科（子ども支援学専攻）では、学科専攻の目標として示されている。開放系の養成課程では、より明示的に示す必要があるため、2023年度の学部再編に合わせて改善する予定である。

##### [長所・特色]

教育実習に対しては、実習生全員に対して本学専任教員が訪問指導をすることを基本としている。原則的に学生が所属する各学科・専攻の演習科目（ゼミナール）の担当教員が訪問することとしているが、担当教員の訪問が難しい場合は、学科・専攻内で調整のうえ、訪問教員を決定している。これらを通じて、実習中においても教育実習生への指導が行える体制を構築している。

##### [取り組み上の課題]

2023年度に新学部の開設（健康スポーツ科学部・福祉社会デザイン学部）の開設を予定しており、新学部における、またキャンパスとしての教職課程運営体制の構築について検討する必要がある。今後、予定されている全学的なカリキュラム改定に合わせて、教職課程の質的向上をどのように図っているか関係部門と調整が必要である。

##### <根拠となる資料・データ等>

資料 1-1-1 教職ガイドブック：<https://onl.la/tV6zeaL>

資料 1-1-2 ライフデザイン学部 履修要覧：<https://onl.la/vJVY9mr>

資料 1-1-3 東洋大学 HP「教員養成に対する理念及び認定課程設置の趣旨等」：

[https://www.toyo.ac.jp/about/data/education/teacher\\_training/](https://www.toyo.ac.jp/about/data/education/teacher_training/)

## 基準項目 1-2 教職課程に関する組織的工夫

### [現状の説明]

学部内に、事務職員、実務家教員、研究者教員から構成される「東洋大学ライフデザイン学部諸資格・教職課程委員会」を組織し、学部における教職に関する事項の審議・運営を進めている。

全学教職センターの専門委員会、運営委員会におい教職課程運営における事項を審議・検討している。学部内においては「東洋大学ライフデザイン学部諸資格・教職課程委員会」を組織し、学部における教職に関する事項の審議・運営を進めている。また学部全体の実習にかかわる組織として「学外実習推進委員会」を置いている。

教職課程を持つ学科専攻が使用できる3つのPC教室（48名収容・100名収容・80名収容）を整備している。各校舎に、学生・教職員がアクセスできるWifi環境を整備し、学生アカウントで個人のPC上でも基本的なアプリケーションが活用できる環境を整えWeb授業や教材作成が可能である。さらに、2018年度から導入を開始した共有のChrome-book100台を整備し、授業の内容に応じて学生が利用できるような環境を整えている。

FD（ファカルティ・ディベロップメント）は、全学で行っている授業評価アンケートを活用して各授業の向上を図っている。また、SD（スタッフ・ディベロップメント）については、外部機関（大学教務実務実践研究会、京私教協教員免許事務勉強会）を活用し、教職課程の質的向上に努めている。

### [長所・特色]

ライフデザイン学部では3つの学科で「幼稚園教諭」「中学教諭（保健・保健体育）」「高等学校教諭（保健・保健体育・工業・工芸）」「養護教諭」という多様な教員養成を行っていることより、「東洋大学ライフデザイン学部諸資格・教職課程委員会」を設置し、各学科の代表者が教職科目の検討、時間割の調整、学科間の情報共有等を行っている。また、教職科目の履修について問題が生じた場合なども本委員会で検討を行うことにより円滑かつ組織的な教職課程の運営を行うことができている。

### [取り組み上の課題]

教職課程の質的向上に特化した、学部としてのFDプログラムについては、2021年度実施されていないため今後の充実が必要である。

### <根拠となる資料・データ等>

資料 1-2-1 東洋大学教職センター規程

資料 1-2-2 教職センター運営委員会委員名簿

資料 1-2-3 教職センター運営委員会議事録

資料 1-2-4 ライフデザイン学部委員構成一覧（諸資格・教職課程委員会委員名簿、学外実習推進委員会委員

名簿を含む)

資料 1-2-5 東洋大学 HP 授業評価アンケート：

<https://www.toyo.ac.jp/academics/improve/organisation/fd/survey/>

資料 1-2-6 ライフデザイン学部クロムブック貸し出し記録

## 〔基準領域 2〕 学生の確保・育成・キャリア支援

### 基準項目 2-1 教職を担うべき適切な人材（学生）の確保・育成

#### [現状の説明]

HP にて各学科専攻のアドミッション・ポリシーを公開した上で学生募集をしている。また、入学時ガイドンスで教職課程の意義や求められる資質や倫理について理解した上で、教職課程の履修ができるようにしている。

教職を担うにふさわしい学生が教職課程の履修を開始・継続するための基準として、3 年生終了次または教育実習を行う前までに、修得が必要な授業科目及び最低履修単位数を定めて運用している。また、「卒業認定・学位授与の方針」も踏まえて定めた、設置届出時の養成人数に応じて学生を受け入れている。

「教職パスポート」を活用し、学生の特性や課題を把握しながら、教職課程として履修状況の把握に努めている。教員による中間点検を行い、学生の状況に応じた指導を行っている。

#### [長所・特色]

1 年より担任制（子ども支援はゼミ担当制）を設け卒業までのカリキュラムマップに基づく履修指導を行うとともに、教員免許状の取得を目指す学生に対して各学科の教職担当教員による教職科目の履修指導、定期的な教職ガイダンスなどを行い、適正に悩む学生への相談等を行っている。

#### [取り組み上の課題]

教職の履修課程において、再履修などの理由により卒業必修科目との重複が発生し、4 年間で教員免許状取得に必要な単位を修得できず教員免許状を諦めたり、卒業後に科目等履修生となり在学時に修得できなかった科目を履修したりする学生が少数存在する。

また、留学により教職科目の配当学年や学期にズレが生じる学生もいる。今後、このような学生への履修機会に関して検討を行う必要がある。

#### <根拠となる資料・データ等>

資料 2-1-1 東洋大学ライフデザイン学部『履修要覧』：<https://onl.la/vJVY9mr>

資料 2-1-2 『教職パスポート』

資料 2-1-3 大学 HP「卒業の認定及び学位授与に関する方針／教育課程の編成及び実施に関する方針／入学者の受入れに関する方針」<https://www.toyo.ac.jp/about/data/education/69151/>

資料 2-1-4 東洋大学教職支援室 HP：<https://www.toyo.ac.jp/academics/ks/about/>

## 基準項目 2-2 教職へのキャリア支援

### [現状の説明]

学生の教職に就こうとする意欲や適性を把握するために、開放性課程においては教職ガイダンスや演習を通じて学生の進路希望に応じた指導を行っている。幼稚園教諭養成課程では、免許に関わる必修科目の中で、各学年で教職の理解を深めると共に相談への対応を行っている。

学部として、教職支援室を設置し、教職支援アドバイザーによるキャリア支援を行っている。教職支援アドバイザーは学校教育や教育行政に長年従事したスタッフを配置し、採用までの疑問、準備内容、論文指導、模擬授業対策、面接票の記入方法、面接対策など各試験対策だけでなく、現場に入ってからの相談についてもフレキシブルに対応している。

教職支援室を通じて情報提供を行い、教職に関する求人情報については、教職課程登録者にメーリングリストを通じて周知している。

キャリア教育の中で教員免許状取得件数、教員就職率を高める工夫としては、以下の様な取り組みをしている。

幼稚園：1年次より卒業必修の演習（ゼミ）科目の中で、現職教員や園長等のゲストスピーカーの話を聞く機会を増やし、自分の適性を考えると共に教員への興味・関心を高める取り組みを行っている。

保健・保健体育・養護教諭：1年、2年の卒業必修である基礎演習（ゼミ）科目の中で、教職を含めた健康づくりに関する職業やその必要性等について学び教職へ興味・関心を高めるとともに、学校行事にボランティア等で参加することにより教育職員としての適性を考える取り組みなどを行っている。

教職課程のOB会を組織し、在学生と卒業生との繋がりができるように努めている。

工業・工芸：1～3年次での必修科目である各演習の授業において、社会における様々な立場でものづくりを行っている教員（含む、非常勤）による指導を通して学生の職業観を育成している。

### [長所・特色]

幼稚園教諭：1年から専門演習（ゼミ）があり、その中でのキャリア教育に力を入れている。さらに、キャリア教育に大きく影響する科目として位置づけられている、保育者論、保育教職実践演習をはじめとしたさまざまな教職課程の科目の中で、現場の保育者や管理職の方にゲストスピーカーとして話をしてもらったり、現場を見学する機会を設けたりしている。

保健・保健体育・養護教諭：1年の基礎演習Ⅰ（ゼミ）で健康スポーツ学科の特色や卒業生の進路などを学び、2年の基礎演習Ⅱ（ゼミ）で5コース（スポーツサイエンス・ヘルスプロモーション・グローバルスポーツ・ユニバーサルスポーツ・アスリートサポート）に分かれ、各コースで「生涯を通じた健康づくり」を深

く体系的に学ぶ。また、現役教員の講話を聞いたり、卒業生が勤務する学校のスポーツ大会や健康診断などにボランティアで参加したりすることで、教職のイメージを具体化できる機会を設けている。

工業・工芸：1～3年次での必修科目である各演習の授業において、社会における様々な立場でものづくりを行っている教員（含む、非常勤）による指導を通して学生の職業観を育成している。

#### [取り組み上の課題]

教職課程を履修し免許を取得する学生が、教職に魅力を感じる機会が少ない。開放性の課程に在籍する学生が、教職の魅力を知る機会を、同じ中学・高校免許を付与する課程を持つ他のキャンパスと連携して用意する必要がある。

また、上記教職支援室は、中学・高校に関する情報が主となり、幼稚園教諭に関する相談・活用は十分にされていない点が課題である。

#### <根拠となる資料・データ等>

資料 2-2-1 東洋大学シラバス：<https://g-sys.toyo.ac.jp/syllabus/>

資料 2-2-2 東洋大学 HP 教職センター紀要：<https://www.toyo.ac.jp/academics/ks/kiyou/>

資料 2-2-3 『パイディア(東洋大学教職課程年報)』：「東洋大学教育実習終了者数」、「教育職員免許状申請状況」「難関突破体験記」

資料 2-2-4 東洋大学教職支援室 HP：<https://www.toyo.ac.jp/academics/ks/about/>

資料 2-2-5 各種対策講座案内 HP：<https://www.toyo.ac.jp/academics/ks/kouza/>

### 〔基準領域 3〕適切な教職課程カリキュラム

#### 基準項目 3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施

##### [現状の説明]

本学部では、各学科専攻の特性に合わせて、カリキュラム・キャップ制度を定めている。各学科専攻の目的を踏まえ、また他の資格等との関連を生かしながら、コアカリキュラムに対応する教職課程カリキュラムを編成している。

教職課程カリキュラムの編成・実施にあたり、ICTに関連した知識・技術を身につけさせるため、オンライン会議ツールや、Chromebookなどを活用し授業を展開し、教育現場でも活用できるような技術を指導・大学の授業内で活用している。

アクティブ・ラーニング（「主体的・対話的で深い学び」）やグループワークを促す工夫としては、以下の様なものがある。例えば、幼稚園教諭養成課程では、子ども支援学演習Ⅰ・Ⅱ（卒業必修）等で地域交流や現場見学等の機会を設けている。また、内容に関する科目を中心に、模擬保育やグループワーク、課題解決学習を取り入れた学修機会を設けている。

保健・保健体育・養護教諭養成課程では、保健体育科教育法Ⅱ、保健体育科指導法Ⅰ・Ⅱ、養護実習基礎演習、健康スポーツ学演習Ⅰ・Ⅱ（卒業必修）等でマイクロティーチングを実施したり、健康づくり協会等

の見学や現役教員を交えた座談会式のグループワークなどを行ったりして、教員としての実践的な力量形成を行っている。さらに、工業・工芸では、教職に必要な実践的な指導力を養う演習授業と幅広い基礎的な知識を養う基礎的な講義科目（工業：人間工学、安全工学／工芸：プロダクトデザイン基礎、美術一般）を組み合わせたカリキュラムを実施している。

#### [長所・特色]

幼稚園：保育・教職実践演習の授業内で、4年間の学びのまとめとして、教員として働く際に必要となるPDCAサイクルを通した「カリキュラムマネジメント」について考えられる学びを実践している。具体的には、実際に理想とする幼稚園の教育課程作成、模擬入園説明会実施、ICTを使った実践記録作成・クラウドを通して記録を共有・共有した記録を基に履修者同士で省察、といった活動である。加えて、現役教員をゲストスピーカーとして招聘することで、大学時代に教職履修者として学ぶべきことや卒業後に教員として働くイメージの形成を行っている。

保健・保健体育・養護教諭：教職履修者が交代で教員役を演じマイクロティーチングを行いその様子を録画して省察を行うことで、自分の授業運営の特徴や改善点を視覚的に理解することが出来る。また、予防医学協会や精神保健センターなどを見学することで学校外の健康づくりに関する機関と学校の連携について学ぶ機会を設けている。現役教員をゲストスピーカーとして招聘することで、大学時代に教職履修者として学ぶべきことや卒業後に教員として働くイメージの形成を行っている。

工業・工芸：プロダクトから建築まで多様なスケールのものづくりについて、教育の基礎となる理論を学ぶだけでなく、実践的な演習授業を通した学びの機会を提供している。具体的には、大学内にあるものづくりのための設備（木工室や金工室、塗装室等）を活用した実践的な教育を行うことで、知識だけではない具体的な技能を習得する機会を提供している。さらに、授業において、様々なものづくりの現場で活躍する方々の協力を得ることで、社会から求められる教育のあり方について学生が考える機会となっている。

#### [取り組み上の課題]

幼稚園：幼稚園教諭に求められる役割・その仕事内容は、子どもへの教育、保護者への支援、地域における子育て力の向上、教育時間の終了後等に行う教育活動の計画と関連させた一体的な教育活動、と幅広くあり、それらをすべて網羅するには、現在の大学の学修環境(幼稚園教職課程の構成教員数、系列幼稚園との連携が現段階ではない等)では、十分とは言えない。今後、上記に書いた仕事内容への実践知を深めていくためにも、系列幼稚園や地域との今以上の連携を、徐々に増やしていくことが必要である。

保健・保健体育・養護教諭：保健体育科教員は体育の授業として自分の専門種目以外も指導できる力量が求められるが、学習指導要領に記載されているすべての種目の指導法を網羅するにはカリキュラム上学修時間が十分とは言えない。また、養護教諭は感染症や環境衛生など学校内で生じる健康問題に加えて、虐待、性の逸脱行為、薬物乱用など学校の範疇を超えて生じる健康問題へ対応するための幅広い知識と情報収集力が必要とされる。今後、学校外の関係機関との連携について学修できる機会を増やしたい。

工業・工芸：高校における工業の教育には、常に進化し続ける技術についての知識や実際に運用する能力が求められている。また、同じく工芸の教育には、基礎的な知識や技術だけでなく、現代的な技術やデザイン



についての知識や技能が必要になっている。これらの要請に応えるために、教科及び教科の指導法に関する科目について、大学内外の多様な人材との連携を図りながら大学の施設を十二分に活用する授業内容とすることで、教育内容のより一層の充実を図っていきたい。

<根拠となる資料・データ等>

資料 3-1-1 東洋大学シラバス：<https://g-sys.toyo.ac.jp/syllabus/>

資料 3-1-2 東洋大学ライフデザイン学部『履修要覧』：<https://onl.la/vJVY9mr>

資料 3-1-3 東洋大学教職支援室 HP：<https://www.toyo.ac.jp/academics/ks/about/>

資料 3-1-4 ライフデザイン学部 各学科専攻ニュースレター

### 基準項目 3-2 実践的指導力養成と地域との連携

[現状の説明]

取得する教員免許状の特性に応じた実践的指導力を育成するために、各免許について以下のような機会を提供している。

幼稚園教諭：保育内容の各授業では、実際の保育の映像教材を活用し、子どもの理解や保育の展開について具体的に把握できるようにしている。また、模擬保育を行う授業がカリキュラムを通して各学年にあり、保育実習室等の実習を行う環境を用意している。

教育実習協力園や地域の園への見学や、園長や保育者をゲストスピーカーとして迎えた授業などを実施している。年に1度、実習園との連絡打ち合わせのための会を開いて、連携を図っている。

保健・保健体育・養護教諭：履修者が交代で教員役を演じてマイクロティーチングを行い、録画を省察することで、自分の授業が改善できる指導を行っている。その際に教職に就いた卒業生や大学院生の意見や感想を得られるようにしたり、現任教員を交えた反省会を実施することで実際の教育現場で行われている授業をイメージできる機会を設けている。

また、教職担当教員が中心となり、教育実習、養護実習の授業時に校長や各教科担当教員などをゲストスピーカーとして招聘し、実習先で求められることや学びを深めるポイントなどの講話を聞く機会を設けている。

工芸・工業：1～3年次での必修科目である各演習の授業において、高等学校の教諭として必要な実践的指導力を養う機会として、具体的なものづくりを通じた教育を行っている。

また、様々な体験活動（介護等体験、ボランティア、インターンシップ等）としては以下の様な取り組みとし、例えば、保健・保健体育・養護教養課程では、教職ボランティア（単位付与無）としてスポーツ大会や学校健康診断の補助などに半日または1日参加し、これらの行事における教員の準備や当日の動き等を体験する機会を設けている。また、教職インターンシップ（単位付与有）として一定時間数以上、保健室で養護教諭の補助、保健体育や通常授業の補助等を担当し、その振り返りをレポートとして提出することで学

校現場を長期的に体験できる機会を設けている。

#### [長所・特色]

赤羽台キャンパスに移転してから、北区との包括連携協定を基に徐々に北区教育委員会との連携を始めている。また板橋区との連携協定があり、2023年度から学生が区立幼稚園、小中学校に出掛けていく仕組みづくりを進めている。

学部では、月一回 不登校の子どもと家族を支援する支援団体と一緒に、学内で子どもたちが活動できる日を設け、学生たちがボランティアで企画・運営している。

また、保健体育科教員を目指す学生が北区の小学校の放課後活動として体づくりや運動指導を行い、体の動かし方や運動することの楽しさを体験する機会を提供している。その際に養護教諭を目指す学生も帯同し、活動の前に「熱中症予防」「感染症予防」など季節に合わせた保健指導を実施している。また、養護教諭を目指す学生が小学生へ保健指導を行うことで、身体活動の重要性やその危険性、健康の保持増進に関することなどを提供している。また、これらの地域連携は教職を履修している学生にとっても、大学での学びを実践的に確認する良い機会となっている。

#### [取り組み上の課題]

全学教職センターを通して、各キャンパス間の連携をとり、東洋大学として実習校との連携をさらに深めていく。

2019年度までキャンパスがあった埼玉県朝霞市の小中学校を中心に地域の学校と連携した活動を行っていたが、2020年に東京都北区に移動したタイミングと同時に新型コロナウイルス感染症が発生し、地域との連携活動に大きな制限が生じた。しかし、2021年度からはオンラインを利用したり、参加数を制限したりするなどの工夫のもと、少しずつ対面での交流が増えてきているところである。

#### <根拠となる資料・データ等>

資料 3-2-1 『教職ガイドブック』：「教職課程とは」(P.14-17)、「ボランティア活動について」(P.40-41)

資料 3-2-2 ライフデザイン学部 HP 各学科専攻ニュースレター

資料 3-3-3 ライフデザイン学部 2022 年度赤羽台 LDL 活動報告書「持続的なコミュニティ形成に資する教育・研究プログラムの構築（教育力特別強化予算）」

資料 3-3-4 東洋大学健康スポーツクラブ AKABANE

<https://www.toyo.ac.jp/social-partnership/csc/social-contribution/social-contributions-toyo/SocialcontributionsContinue/AKABANE/>